

PRIMERGY TX200FT S3

はじめにお読みください

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本紙をご覧になり、PRIMERGYを使用する準備を行ってください。

本紙に記載されていない項目や詳細な手順については、PRIMERGYドキュメント&ツールCD内の『ユーザーズガイド』を参照してください。

■本製品のマニュアルについて

本製品の各マニュアルは、PRIMERGYドキュメント&ツールCDの以下から参照できます。

【CD-ROM ドライブ】 ¥MANUAL¥INDEX.PDF

各マニュアルは、Adobe Systems 社の Acrobat® Reader® または、Adobe® Reader® で表示できます。Acrobat® Reader® は、バージョン 5.0 以降をご利用ください。

なお、最新の Adobe® Reader® (バージョン 7.05) は、PRIMERGYドキュメント&ツールCDの以下からインストールできます。

【CD-ROM ドライブ】 ¥Adobe¥AdbRdr705_jpn_full.exe

1 梱包物を確認する

『梱包物一覧』をご覧になり、梱包物／添付品が揃っているか確認してください。万一、欠品などがございましたら、担当営業員までご連絡ください。

2 『安全上のご注意』を確認する

本製品をお使いになる前に、添付の『安全上のご注意』を必ずご確認ください。

また、接続や内蔵オプションの取り付け時など、本製品をセットアップする際にも事前に内容をご確認ください。

3 内蔵オプションを取り付ける

内蔵オプションを別途ご購入した場合は、OSを開封する前に取り付けます。

■内蔵オプション取り付け時の留意事項

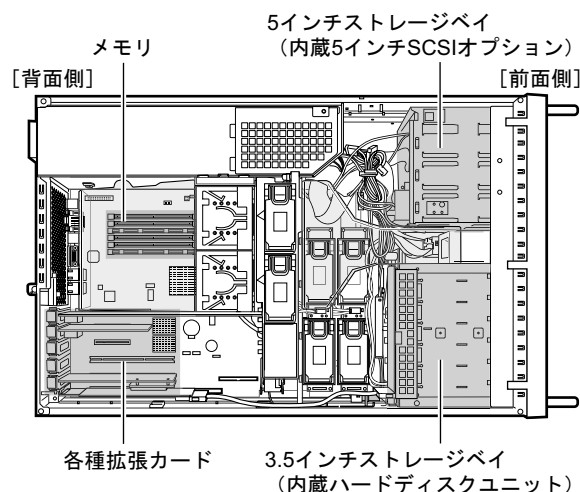
実際に内蔵オプションを取り付ける場合は、次のマニュアルを熟読の上、作業を行ってください。

🌀 **ユーザーズガイド** ▶▶ 「第5章 内蔵オプションの取り付け」

📄 **オプション取説** ▶▶ オプション装置に添付のマニュアル

メモリ、ハードディスクを搭載する場合は、両方の筐体に、必ず同一の容量のものを取り付けてください。

■内蔵オプションの種類と取り付け位置

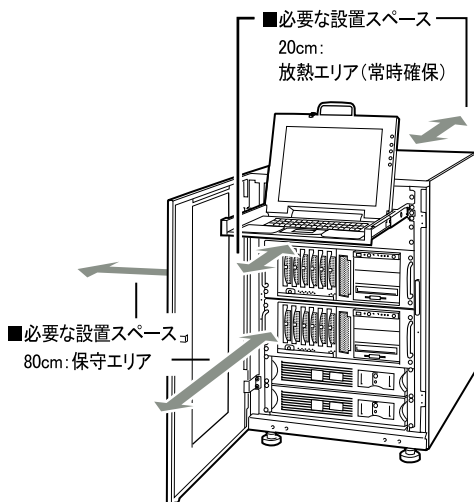


内蔵オプションを搭載後、搭載場所や搭載順序が正しいこと、ケーブルが確実に接続されていることを確認してください。

4 設置場所を確認して設置する

以下の条件、必要な設置スペースをご確認の上、適切な場所に設置してください。

■設置場所の条件



■本サーバを設置するときは、次の場所は避けてください。

- ・湿気やほこり、油煙の多い場所
- ・通気性の悪い場所
- ・火気のある場所
- ・周囲温度が10～35℃をはずれる場所
- ・湿度が20～80%をはずれる場所
- ・電源ケーブルなどのケーブルが足にひっかかる場所
- ・テレビやスピーカーの近くなど、強い磁気が発生する場所
- ・水のかかる場所
- ・直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所
- ・腐食性ガスが発生する場所
- ・塩害地域
- ・振動の激しい場所や傾いた状態など、不安定な場所

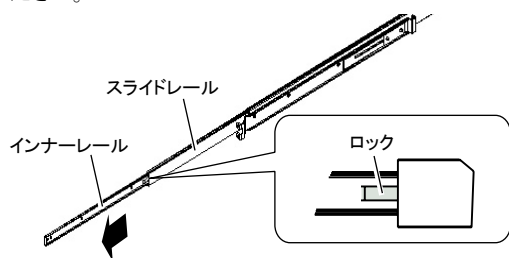
2つの筐体をラックに搭載する際は、上から FT1、FT2 の順に搭載してください。FT1 と FT2 の識別は、本体正面左上のラベルで確認します。

■サーバ本体のラックへの搭載

- ・ラックは必ず固定し、転倒防止用スタビライザを取り付けてください。ラックの設置に関する詳細は、『ラック設置ガイド』およびラックに添付のマニュアルを参照してください。
- ・サーバ本体の総重量は 36kg を超えますので、サーバ本体の運搬を行う場合は、必ず 3 人以上で本体の左右側面、および底面を持ってください。

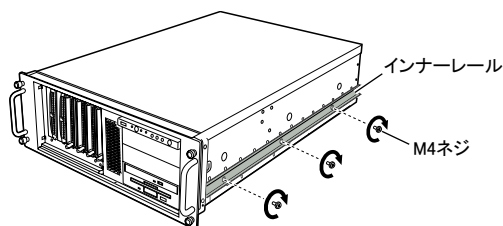
1 スライドレールからインナーレールを取り外します。

ロックを押しながらインナーレールを引き抜いてください。



2 サーバ本体の左右に、インナーレールを取り付けます。

インナーレールの左右 3 箇所を、M4 ネジで固定してください。



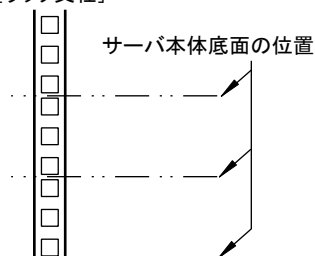
※反対側も同様に固定してください。

3 ラックのフロントドアとリアドアを開けます。

4 スライドレールと、ラックナットの取り付け位置を決めます。

ラック支柱の穴の間隔が狭い位置（下図を参照）のいずれかに、サーバの底面がくるように合わせます。

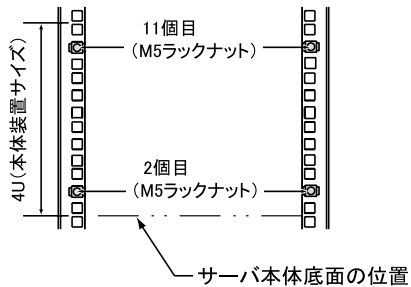
[ラック支柱]



5 M5 ラックナットを取り付けます。

1 台の筐体につき 4U 使用します。サーバ本体を取り付ける位置の下から 2 個目と 11 個目の位置に、ラック支柱の内側からツメを引っ掛けて、取り付けてください。

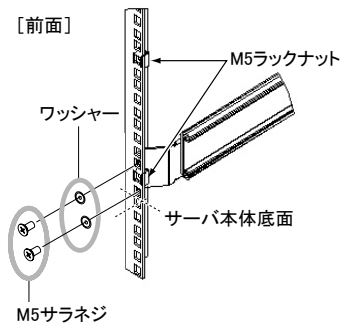
[ラック支柱前面]



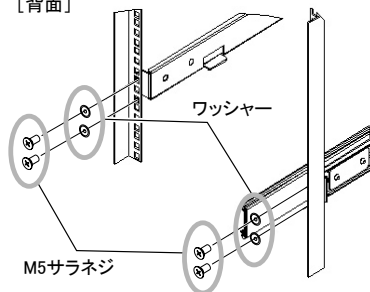
6 レールをラックに取り付けます。

スライドレールは、サーバ本体を取り付ける位置の下から 1 個目と 3 個目の位置に、M5 サラネジとワッシャーで取り付けてください。

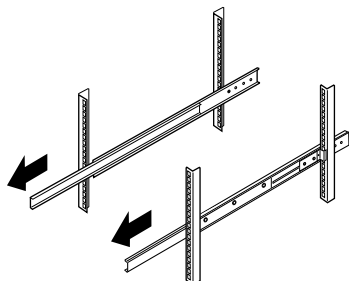
[前面]



[背面]



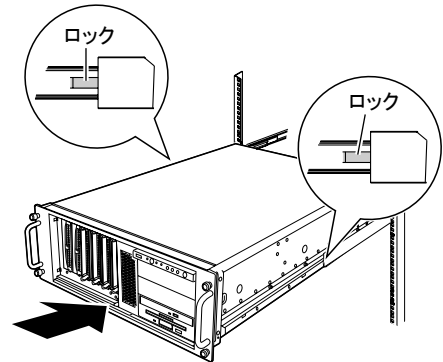
7 スライドレールを、「カチッ」と音がるまで伸ばします。



8 サーバ本体をラックに取り付けます。

スライドレールの溝と、サーバ本体に取り付けたインナーレールの溝を合わせ、サーバ本体を後方にスライドさせます。

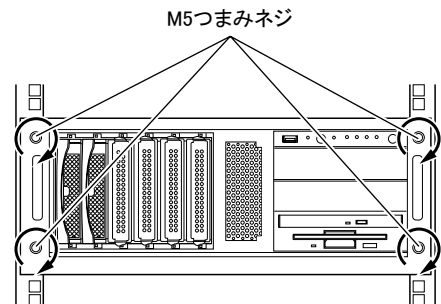
左右のスライドレールのロックを押しながら、さらに後方にスライドさせて、ラックに搭載してください。



サーバ本体をスライドさせる場合や、元に戻す場合は、充分注意してください。指や衣服が挟まれて、けがをするおそれがあります。

9 サーバ本体とラックを固定します。

M5 つまみネジ 4 本で固定してください。



10 2 台目の筐体も同様にラックへ搭載します。

ラックにサーバおよび周辺装置が搭載されていない場合には、ラックに添付のブランクパネルを搭載してください。

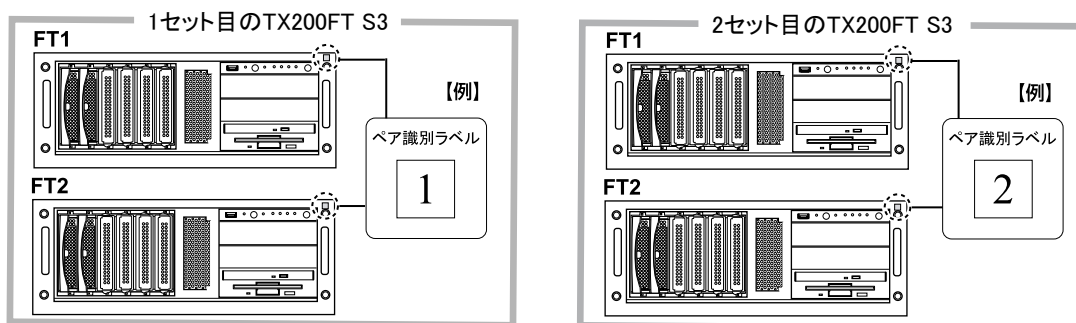
5 各ラベルに情報を記入し、貼り付ける

周辺装置の接続を行う前に、本体前面のペア識別ラベルと各ケーブルに、それぞれ以下の添付品を貼り付ける作業を行います。これにより、ケーブルの識別が容易になり、ケーブルの接続ミスなどの事故を防止できます。

■ペア識別ラベルへの番号シール貼り付け

本体前面のペア識別ラベルに、FT1、FT2がペアであることがわかるように、添付のラベルシート内の「汎用番号シール」を貼り付けてください。

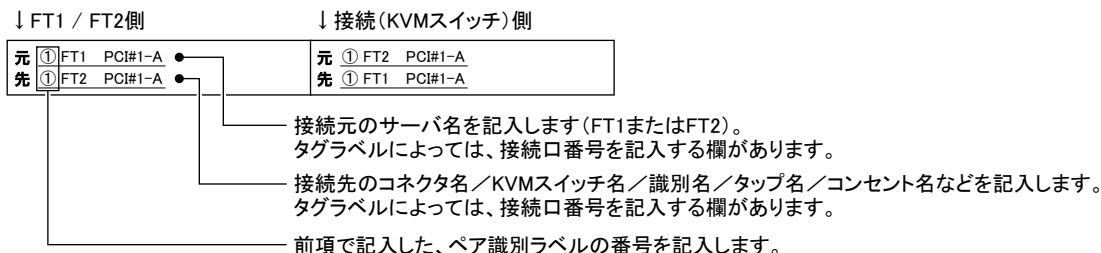
サポート窓口にお問い合わせの際にも、ペアの型名、号機の情報が必要になります。必ずペア識別ラベルへ「汎用番号シール」を貼り付けてください。



■ケーブルへのタグラベル貼り付け

タグラベルは、ケーブル両側のコネクタに近い位置にそれぞれ1枚ずつ貼り付けて使用します。

なお、記入例の詳細は次ページを参考にしてください。



●貼り付けかた

ケーブルのコネクタに近い位置に、タグラベルの中心からケーブルを巻きつけるように貼り合わせてください。



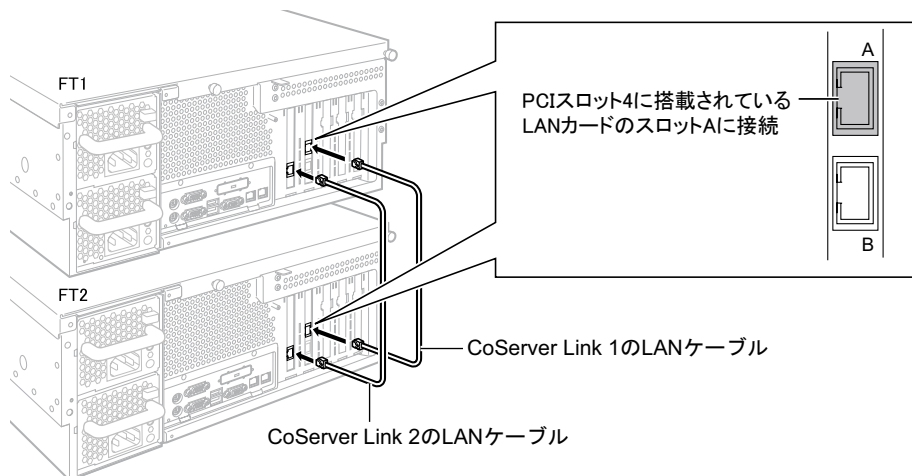
●記入例

ケーブル名		記入例			
CoServerLink1用 LANケーブル	FT1側	元 ① FT1 PCI#4-A 先 ① FT2 PCI#4-A	FT2側	元 ① FT2 PCI#4-A 先 ① FT1 PCI#4-A	
CoServerLink2用 LANケーブル	FT1側	元 ① FT1 PCI#5 先 ① FT2 PCI#5	FT2側	元 ① FT2 PCI#5 先 ① FT1 PCI#5	
CRT/KBケーブル (FT1用)	FT1側	元 ① FT1 先 KVMスイッチ PORT#1	KVMスイッチ側	元 KVMスイッチ PORT#1 先 ① FT1	
CRT/KBケーブル (FT2用)	FT2側	元 ① FT2 先 KVMスイッチ PORT#2	KVMスイッチ側	元 KVMスイッチ PORT#2 先 ① FT2	
電源ケーブル (FT1用)	FT1側	元 ① FT1 先 AC#1 ※電源系統の番号等	コンセント側	元 AC#1 ※電源系統の番号等 先 ① FT1	
電源ケーブル (FT2用)	FT2側	元 ① FT2 先 AC#2 ※電源系統の番号等	コンセント側	元 AC#2 ※電源系統の番号等 先 ① FT2	
監視用 LANケーブル (FT 1用)	FT1側	元 ① FT1 PCI#4-B 先 PORT#1 ※ハブのポート番号等	ハブ側	元 PORT#1 ※ハブのポート番号等 先 ① FT1 PCI#4-B	
監視用 LANケーブル (FT 2用)	FT2側	元 ① FT2 PCI#4-B 先 PORT#2 ※ハブのポート番号等	ハブ側	元 PORT#2 ※ハブのポート番号等 先 ① FT2 PCI#4-B	
業務用 LANケーブル (FT 1用)	FT1側	元 ① FT1 LAN#1 先 PORT#3 ※ハブのポート番号等	ハブ側	元 PORT#3 ※ハブのポート番号等 先 ① FT1 LAN#1	
業務用 LANケーブル (FT 2用)	FT2側	元 ① FT2 LAN#1 先 PORT#4 ※ハブのポート番号等	ハブ側	元 PORT#4 ※ハブのポート番号等 先 ① FT2 LAN#1	
電源ケーブル (FT1用) ※ UPS使用の場合	FT1側	元 ① FT1 先 UPS1#1 ※出力番号等	UPS1側	元 UPS1#1 ※出力番号等 先 ① FT1	
電源ケーブル (FT2用) ※ UPS使用の場合	FT2側	元 ① FT2 先 UPS2#1 ※出力番号等	UPS2側	元 UPS2#1 ※出力番号等 先 ① FT2	
シリアルポート接続ケーブル (FT1用)	FT1側	元 ① FT1 COM#2 先 UPS1 PORT#1	UPS1側	元 UPS1 PORT#1 先 ① FT1 COM#2	
シリアルポート接続ケーブル (FT2用)	FT2側	元 ① FT2 COM#2 先 UPS2 PORT#1	UPS2側	元 UPS2 PORT#1 先 ① FT2 COM#2	

6 周辺装置を接続する

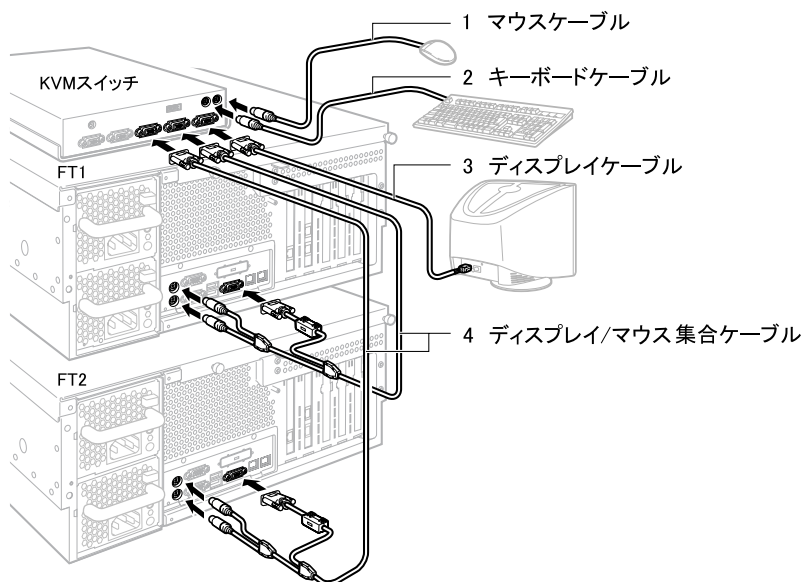
サーバ本体に、LANケーブル、キーボードやマウスなどの周辺装置をそれぞれ次の順番で接続します。

● LAN ケーブルの接続



- ・ケーブルが交差しないように、同じカードの差し込み口に接続してください。
- ・業務用LAN、監視用LANはまだ接続しないでください。

● ディスプレイ、キーボード、マウスの接続



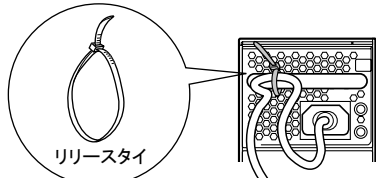
- 付属のKVMスイッチ(PG-SB201)にディスプレイを接続後、必ず「プラグアンドプレイデータの取得」を実施してください。操作方法については、KVMスイッチのマニュアルを参照してください。

●電源ケーブルの接続

・UPS（PowerChute Business Edition）を使用する場合

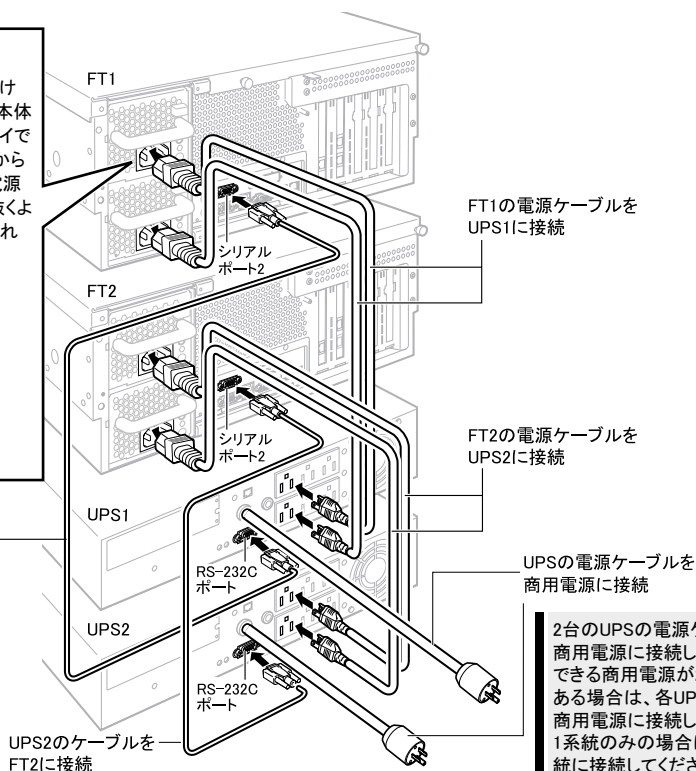
■リリースタイによる電源ケーブルの固定

サーバ本体を前面に引き出す際に電源ケーブルが抜け落ちることを防止するために、電源ケーブルをサーバ本体に接続したあと、下図を参考にして、添付のリリースタイで電源ユニットの取っ手部分と電源ケーブルのコネクタから10cmくらいの箇所を固定してください。なお、本体の電源ケーブルを抜くときは、必ず本体側の電源コネクタを抜くようにしてください。FT1、FT2の電源コネクタ(4箇所)をそれぞれリリースタイで固定してください。



UPS1のケーブルをFT1に接続

UPS1のRS-232Cポートと、FT1のシリアルポート2を、専用ケーブル(940-0024C)で接続します。同様に、UPS2とFT2も専用ケーブルで接続してください。

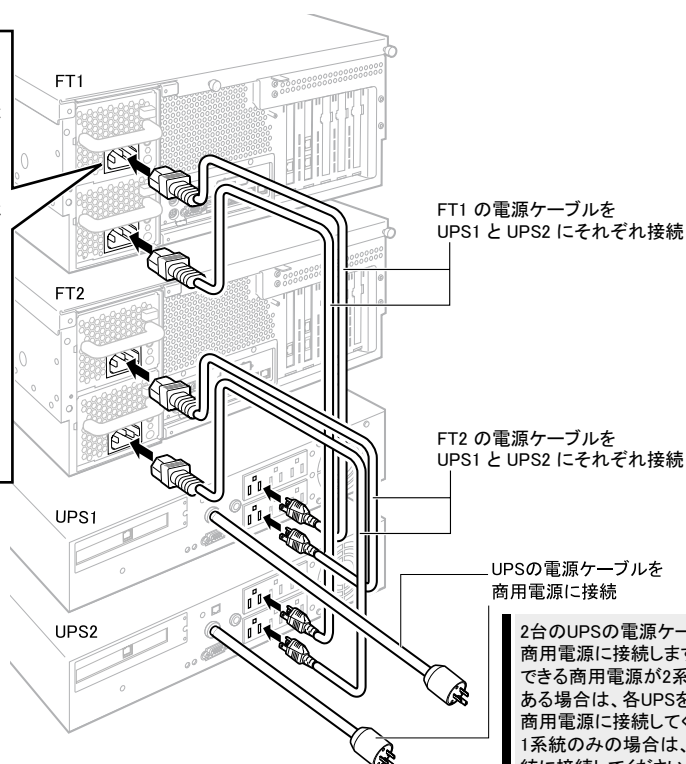
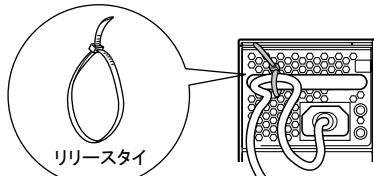


2台のUPSの電源ケーブルを、商用電源に接続します。使用できる商用電源が2系統以上ある場合は、各UPSを別々の商用電源に接続してください。1系統のみの場合は、同一系統に接続してください。

・UPS（PowerChute Network Shutdown）を使用する場合

■リリースタイによる電源ケーブルの固定

サーバ本体を前面に引き出す際に電源ケーブルが抜け落ちることを防止するために、電源ケーブルをサーバ本体に接続したあと、下図を参考にして、添付のリリースタイで電源ユニットの取っ手部分と電源ケーブルのコネクタから10cmくらいの箇所を固定してください。なお、本体の電源ケーブルを抜くときは、必ず本体側の電源コネクタを抜くようにしてください。FT1、FT2の電源コネクタ(4箇所)をそれぞれリリースタイで固定してください。



2台のUPSの電源ケーブルを、商用電源に接続します。使用できる商用電源が2系統以上ある場合は、各UPSを別々の商用電源に接続してください。1系統のみの場合は、同一系統に接続してください。

7 OS 開封前に必要な情報を決める

OSの開封処理を行う前に、必要となる以下の情報を決めておきます。

- ・オーナー情報
- ・利用者情報（ユーザおよびパスワード）
- ・片系障害発生時の自動起動設定
- ・自動シャットダウン時の待ち合わせ時間（UPS 使用時のみ）
- ・ネットワーク構成

以下シート内の太枠部分の値を決定し、記入してください。記入後、本紙を大切に保管しておいてください。

□ オーナー情報

項目名	Virtual Server	FT1 (CoServer1)	FT2 (CoServer2)
名前			
組織名			

□ 利用者情報

項目名		FT1 (CoServer1)	FT2 (CoServer2)
Virtual Server のシステム管理者	ユーザアカウント	Administrator	
	パスワード *1		
CoServer のシステム管理者	ユーザアカウント	Administrator	
	パスワード *1、2		
UPS サービスのシステム管理者 *3	ユーザアカウント		
	パスワード		
PowerChute 用管理ユーザ *4	ユーザアカウント		
	パスワード		
GAM (RAID 管理) 用ユーザ	ユーザアカウント	gamroot	
	パスワード *1、2		

*1：パスワードは空にせず、必ず設定してください。

*2：Virtual Server、CoServer1 および CoServer2 で異なるパスワードに設定できますが、各種設定手順が煩雑になることを避けるため、Virtual Server、CoServer1 および CoServer2 で同じパスワードにすることを推奨します。

*3：UPS サービスのログオン用アカウントです。

*4：このユーザは PowerChute 上で設定するもので、Windows のユーザアカウントとは関係ありません。

□ 片系障害発生時の自動起動設定

項目名	FT1 (CoServer1)	FT2 (CoServer2)
片系自動起動設定	有効 / 無効	有効 / 無効
CoServer 組み込み待ち時間 (0 秒～)	秒	秒

・ CoServer の組み込み待ち時間は余裕を持って設定してください (600 秒以上推奨)。

・ FT システムは相手の CoServer を認識するまで時間を要します。極端に短い時間を設定した場合、相手の CoServer を認識する前に、CoServer の組み込み待ち時間を超過してしまい、一方の CoServer のみで起動を開始してしまう場合があります (240 秒未満は禁止)。

・ CoServer2 の CoServer の組み込み待ち時間は、CoServer1 の設定値より 10 秒以上長くしてください。

・ 片系自動起動設定は、CoServer1、CoServer2 それぞれで設定を行います。

・ 片系自動起動設定を「有効」にする場合、特別な理由がない限りは FT1、FT2 の両方を「有効」に設定してください。

・ CoServer の組み込み待ち時間を 256 秒以上に設定する場合は、『ユーザーズガイド』の「2.7.1 FT システム起動、停止時の留意事項」—「■ CoServer 待ち合わせ時間に 256 秒以上を設定する場合」を参照して設定してください。

・ FT2 による片系起動が実行された場合は、『ユーザーズガイド』の「7.2.2 ハードウェア保守時のトラブル対応」—「■ バックアップソフトウェアの操作」の作業が必要になります。

□ 自動シャットダウン時の待ち合わせ時間

この設定は UPS を使用する場合に必要です。

● PowerChute Business Edition を使用する場合

各設定値については、『ユーザーズガイド』の「3.5 PowerChute Business Edition の設定 [UPS の設定]」を参照してください。
() 内の数字は設定例です。

項目名	実際の設定項目	設定時間
停電発生から Virtual Server のシャットダウン処理開始までの待ち時間	デバイスプロパティの「電源障害」→「電源障害時のシャットダウン開始 :」→「UPS のバッテリー状態が次の時間経過後 :」	分 (1 分)
Virtual Server のシャットダウン処理開始から CoServer のシャットダウン開始までの待ち時間 (コマンドファイル実行所要時間)	デバイスプロパティの「シャットダウンシーケンス」→「次へ」→「OS」を選択→「待機時間」	分 (3 分)
CoServer シャットダウン開始から、UPS の電力切断までの待ち時間 (OS のシャットダウンに必要な時間)	デバイスプロパティの「シャットダウンシーケンス」→「次へ」→「OS」を選択→「期間」	分 (1 分 30 秒)
合計		分 秒 (5 分 30 秒)

● PowerChute Network Shutdown を使用する場合

各設定値については、『ユーザーズガイド』の「3.6 PowerChute Network Shutdown の設定 [UPS の設定]」を参照してください。
() 内の数字は設定例です。

項目名	実際の設定項目	設定時間
停電発生から Virtual Server のシャットダウン処理開始までの待ち時間	「Configuration Events」→「Configure Shutdown」→「Shutdown the system only when the event lasts this long (seconds):」	分 (1 分)
CoServer シャットダウン開始から、UPS の電力切断までの待ち時間 (OS のシャットダウンに必要な時間)	「Configuration」→「Shutdown Parameters」→「Shutdown Delay」	分 (5 分)
合計		分 (6 分)

□ ネットワーク構成

コンピュータ名は半角英数字で設定します (全角文字は使用できません)。

CoServer Link1、CoServer Link2、仮想 LAN1、仮想 LAN2 は、内部ネットワーク用の設定です。通常は変更する必要はありません。ただし、外部ネットワークとの競合がある場合は、『ユーザーズガイド』「3.2 ネットワーク機能について」を参照して、設定してください。() 内はデフォルト値です。

項目名	Virtual Server	
	IP アドレス	サブネットマスク
コンピュータ名		
ローカルエリア接続 (業務用 LAN)
ローカルエリア接続 2 (業務用 LAN) 増設時のみ
ローカルエリア接続 3 (業務用 LAN) 増設時のみ
Virtual Network1 (仮想 LAN1)	(192 . 168 . 181 . 81)	(255 . 255 . 255 . 252)
Virtual Network2 (仮想 LAN2)	(192 . 168 . 181 . 85)	(255 . 255 . 255 . 252)

項目名	CoServer1 (FT1)		CoServer2 (FT2)	
	IP アドレス	サブネットマスク	IP アドレス	サブネットマスク
コンピュータ名				
CoServer Management (監視用 LAN)
CoServer Link1	(192 . 168 . 181 . 89)	(255 . 255 . 255 . 252)	(192 . 168 . 181 . 90)	(255 . 255 . 255 . 252)
CoServer Link2	(192 . 168 . 181 . 93)	(255 . 255 . 255 . 252)	(192 . 168 . 181 . 94)	(255 . 255 . 255 . 252)
Virtual Network (仮想 LAN)	(192 . 168 . 181 . 82)	(255 . 255 . 255 . 252)	(192 . 168 . 181 . 86)	(255 . 255 . 255 . 252)

項目名	UPS1		UPS2	
	IP アドレス	サブネットマスク	IP アドレス	サブネットマスク
ネットワークマネジメントカード (UPS に搭載されている場合)

- ・ 設定の際、CoServer 上に業務用 LAN のアダプタが表示されますが、Virtual Server が使用するため予約されています。CoServer 上のこれらのアダプタにインターネットプロトコル (TCP/IP) をバインドしたり、IP アドレス、サブネットマスクを設定しないでください。業務用 LAN の IP アドレス、サブネットマスクは Virtual Server 上で設定してください。
- ・ コンピュータ名は半角 14 文字以内で指定してください。全角文字は使用しないでください。

8 電源を入れて、各 OS を開封する

CoServer1、CoServer2、Virtual Serverを開封する手順について説明します。
Virtual Serverを開封するには、CoServer1とCoServer2の両方が開封されている必要があります。
以下の順番で開封を行ってください。

- (1) FT1 の電源を入れ、CoServer1 を開封します。このとき、FT2 の電源はまだ入れないでください。
- (2) FT2 の電源を入れ、CoServer2 を開封します。開封手順は CoServer1 と同様です。
- (3) CoServer1 と CoServer2 にログオンし、Virtual Server を開封します。

- ・ CoServer1 と CoServer2 を同時に開封することはできません。FT1 の電源を入れた後、CoServer1 の開封が終了するまで、FT2 の電源は入れないでください。
- ・ 内蔵ハードディスクを増設した場合は、各 OS の開封前に、リカバリ DVD を使用してリカバリ操作を行ってください。



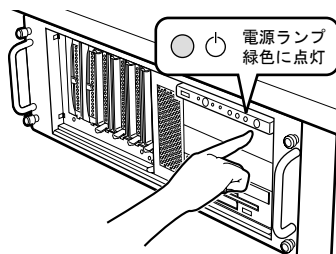
ユーザーズガイド ▶▶ 「第 7 章 運用と保守 7.7 ご購入時の状態にする（リカバリ）」

■ CoServer1 を開封する

1 業務用 LAN と監視用 LAN が、サーバ本体に接続されていないことを確認し、周辺装置の電源を入れます。

UPS を接続している場合は、UPS が正常に電力を供給しているか確認してください。

2 FT1 本体前面の電源スイッチを押します。



電源が入ると、サーバ本体の装置をチェックする「POST（Power On Self Test：パワーオンセルフテスト）」を行います。POST の結果、異常があれば、エラーメッセージが表示されます。



ユーザーズガイド ▶▶ 「7.3.1 POST エラーメッセージ」

POST 終了後、自動的に開封処理が開始されます。

3 開封時に、以下の項目を入力します。

各項目の設定値を十分確認し、[次へ] をクリックしてください。

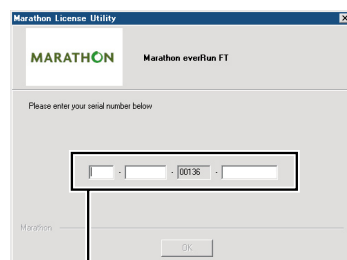
- ・ ソフトウェアの個人用設定（名前・組織名）
- ・ コンピュータ名（半角英数字のみを使用）
- ・ Administrator のパスワード

- ・ CoServer1 と CoServer2 で同一のパスワードに設定すると、デバイスの追加／削除、CoServer Backup ツールの使用が簡単になります。
- ・ パスワードは必ず設定してください。FT システム内部の通信に問題が発生します。
- ・ [戻る] で戻れない場合があります。設定項目を十分確認してから [次へ] をクリックしてください。

セットアップ終了後、サーバが再起動し、Windows OS が起動します。

4 CoServer1 にログオンします。

ログオン後、Windows セキュリティ更新プログラムの適用処理が自動実行され、その後、以下の画面が表示されます。everRun License Number を入力し、[OK] をクリックします。



everRun License Number を入力

- ・ everRun License Number は、リカバリ DVD 一式に同梱の『ライセンス番号』に記載されています。この番号は CoServer1 と CoServer2 で共通です。
- ・ 環境により、NumLock ロック状態になる場合があります。その場合は、NumLock キーを押してロック状態を解除してから、everRun License Number を入力してください。
- ・ Windows セキュリティ更新プログラムの適用は、途中でキャンセルしないでください。また、表示されている DOS プロンプト画面は消さないでください。
- ・ everRun License Number は必ず入力してください。入力せずにサーバ本体の再起動を行った場合は、システムが正常にセットアップされません。

再起動を促すメッセージが表示されます。

5 [はい] をクリックします。

CoServer が再起動します。再起動後に、POST 画面（または「PRIMERGY」のロゴ画面）が表示されます。

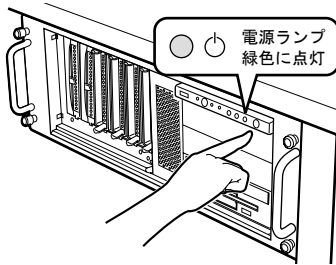
6 サーバの再起動が開始したら、すぐにサーバ本体前面の電源スイッチを押して、電源を切ります。

■ CoServer2 を開封する

CoServer2の開封手順は、CoServer1と同様です。前項「■ CoServer1を開封する」を参照して、開封処理を行ってください(FT1→FT2、CoServer1→CoServer2にそれぞれ置き換えてお読みください)。

■ Virtual Server を開封する

1 FT1、FT2 の電源を入れます。



POST 終了後、OS の選択画面が表示されます。

オペレーティング システムの選択

Online Marathon CoServer
Offline Marathon CoServer

上矢印キーと下矢印キーを使って項目を選択し、Enterキーを押してください。

Windowsの問題解決と拡張起動オプションについては、F8キーを押してください。

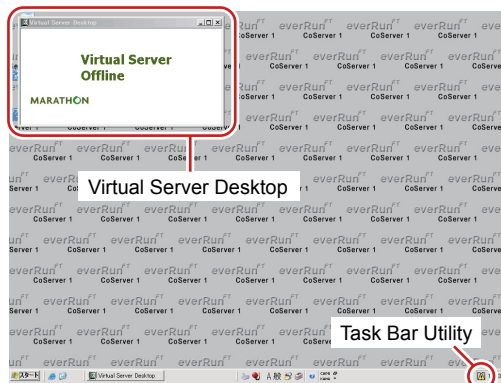
2 「Online Marathon CoServer」 が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。

ログオン画面が表示されます。

上記操作を行わなかった場合は、一定時間(既定値は30秒)後に「Online Marathon CoServer」として起動します。そのまま次の操作に移って問題ありません。

3 FT1 で、管理者権限のパスワードを入力して CoServer1 にログオンします。

以下の画面が表示されます。



以下のスタートアッププログラムが起動しない場合は、各プログラムを手動で起動してください。

- Virtual Server Desktop
手動起動方法: 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Marathon」→「Virtual Server Desktop」
- Task Bar Utility
手動起動方法: 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Marathon」→「Task Bar Utility」

4 CoServer1 で、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Marathon」→「Management Tasks」→「Virtual Server」→「Start」の順にクリックします。

Windows 2003 セットアップウィザードの開始画面が表示されます。

Virtual Server Desktop の画面には、しばらくの間何も表示されませんが、エラーではありません。そのままお待ちください。

5 [次へ] をクリックします。

セットアップが開始されます。セットアップ中に以下の項目を入力します。それ以外の項目は任意で入力してください。各項目の設定値は十分確認した上で [次へ] をクリックしてください。

- ・ライセンス契約の同意
- ・ソフトウェアの個人用設定 (名前・組織名)
- ・コンピュータ名 (半角英数字のみを使用)
- ・Administrator のパスワード

セットアップが完了すると、Virtual Server が再起動し、ログオン画面が表示されます。

6 Virtual Server にログオンします。

ログオン後、Windows セキュリティ更新プログラムの適用処理が自動的に実行され、「セットアップ後のセキュリティ更新」画面が表示されます。

7 「セットアップ後のセキュリティ更新」画面の [完了] ボタンをクリックします。

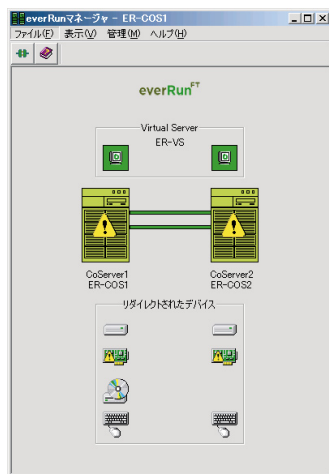
Windows セキュリティ更新プログラムの適用は、開封処理がすべて完了した後(手順 17 以降)に行ってください。

8 Virtual Server で、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、再起動します。

9 Virtual Server にログオンします。

10 everRun マネージャを起動します。

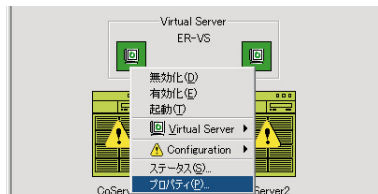
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Marathon」→「everRun Manager」の順にクリックして、everRun マネージャを起動します。



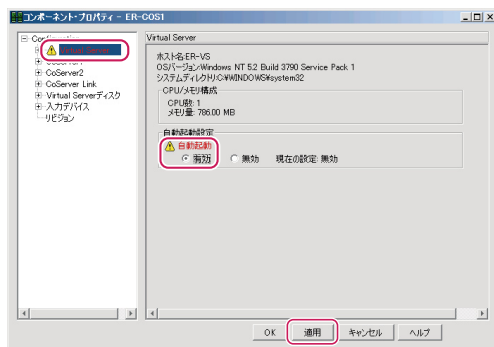
業務用 LAN ケーブルが HUB などと接続されてない状態では、上図のようにエラー表示になりますが、異常ではありません。このまま作業を続けてください。

11 Virtual Server アイコンを右クリックし、「プロパティ」を選択します。

「コンポーネントプロパティ」画面が表示されます。



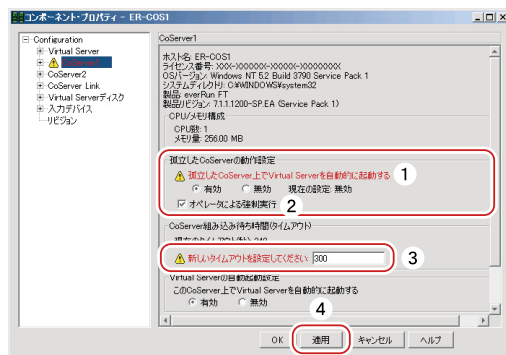
12 左側のツリーから「Virtual Server」を選択し、「自動起動設定」の「有効」をチェックして、「適用」をクリックします。



赤字の警告メッセージがプロパティ画面上に表示されますが、プロパティ値を変更したことを示しており、動作上問題ありません。

「□ 片系障害発生時の自動起動設定」(⑧ページ)で「有効」設定を選択した場合は、次の手順を行って自動起動設定を行います。「無効」設定を選択した場合は、手順 13、14 は必要ありません。手順 15 に進んでください。

13 左側のツリーから「CoServer1」を選択し、孤立した CoServer の動作設定を行います。



1. 「孤立した CoServer 上で Virtual Server を自動的に起動する」を「有効」に設定します。
2. 「オペレータによる強制実行」にチェックを付けます。
3. CoServer 組み込み待ち時間 (タイムアウト) の「新しいタイムアウトを設定してください」に、「□ 片系障害発生時の自動起動設定」(⑧ページ)で設定した「CoServer 組み込み待ち時間」の秒数を入力します。
4. [適用] をクリックします。

14 左側のツリーから CoServer2 をクリックし、同様に孤立した CoServer の動作設定を行います。

15 [OK] をクリックして「コンポーネント・プロパティ」画面を閉じ、everRun マネージャを終了します。

16 以下のアダプタに IP アドレスを設定します。

あらかじめ DHCP で IP アドレスを自動取得する設定になっていますので、そのままでも良い場合は、この手順は必要ありません。

- ・ CoServer1 の「CoServer Management」
- ・ CoServer2 の「CoServer Management」
- ・ Virtual Server の「ローカルエリア接続」

CoServer1 および CoServer2 の「Redirected0」は、Virtual Server が使用するため予約されています。これらのアダプタにインターネットプロトコル (TCP/IP) をバインドしないでください。業務用 LAN の IP アドレス、サブネットマスクは Virtual Server 上で設定してください。

17 OS 開封前にオプション装置を追加した場合は、ユーザーズガイドの以下を参照し、増設後の操作を行ってください。

- ・ LAN カードを追加した場合
「5.5 LAN カード取り付け後の操作」
- ・ 5 インチ内蔵バックアップ装置を追加した場合
「5.8.4 内蔵バックアップ装置取り付け後の操作」
- ・ 外付けバックアップ装置を追加した場合
「5.9 外付けバックアップ装置の接続」

9 電源を切る

Virtual Server画面で、以下の手順でシャットダウンを行ってください。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Marathon」→「Management Tasks」→「Configuration」→「Shutdown」の順にクリックします。

シャットダウンを確認するメッセージが表示されます。

- 2 「OK」をクリックします。

Virtual Server → CoServer1 → CoServer2 の順にシャットダウンし、自動的に電源が切れます。

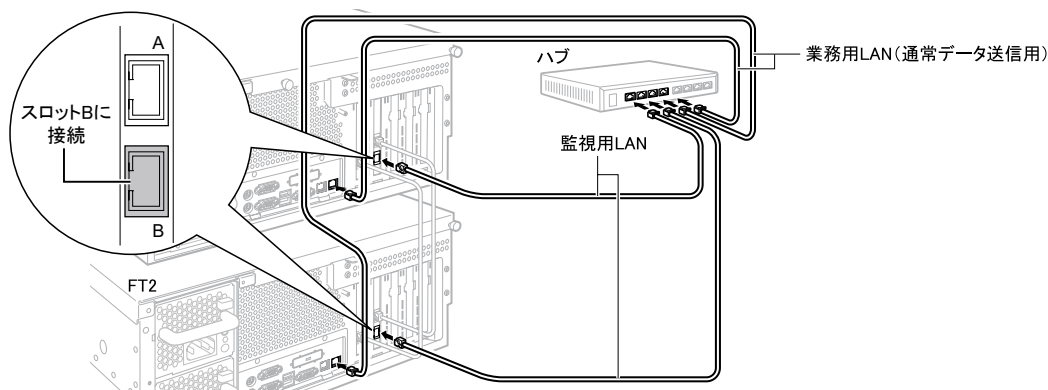


電源を切ったあと、再び電源を入れるときは、10 秒以上待ってから電源スイッチを押してください。電源を切ったあとすぐに電源を入れると、サーバ本体の誤動作、および故障の原因になります。

10 残りの LAN ケーブルを接続する

サーバの電源切断後、以下のとおり残りの LAN ケーブルを接続してください。

- ・ FT システムでは、業務用（通常データ送信用）、CoServer Link、監視用のすべての LAN を使用して制御を行っていますので、監視用 LAN ケーブルも忘れずにハブなどに接続してください。
- ・ UPS にネットワークマネジメントカードが搭載されている場合は、ネットワークマネジメントカードにも LAN ケーブルを接続してください。



11 運用を開始する前に

OSの開封後、運用を開始する前に、以下の操作を行ってください。

● everRun ソフトウェアアップデート CD-ROM の適用

everRunソフトウェアのアップデート CD-ROMが製品に添付されている場合、OSの開封後に適用します。適用することにより、システムに潜在する問題を未然に防ぐことができます。適用手順は、CD-ROMに添付の取扱説明書をお読みください。

● 各種ソフトウェアの設定

- ・ 以下を参照し、FTシステムを運用するための設定を行ってください。

🕒 **ユーザズガイド** ▶▶ 「第3章 運用前の設定」、「4.3.4 運用前のサーバ監視ソフトウェアの設定について」

- ・ UPSをご使用になる場合は、以下を参照し、UPSの設定を行ってください。

🕒 **ユーザズガイド** ▶▶ 「3.5 PowerChute Business Edition の設定 [UPS の管理]」、「3.6 PowerChute Network Shutdown の設定 [UPS の管理]」

● CoServer のバックアップ

片方のサーバ復旧に備えて、以下を参照し、システムの運用を開始する前に CoServerのバックアップを行ってください。

🕒 **ユーザズガイド** ▶▶ 「7.6 バックアップ」

運用開始後の保守については、『ユーザズガイド 第7章 運用と保守』を参照して内容をご確認ください。

12 サポート&サービス

● PRIMERGY FT モデルの情報提供について

PRIMERGY FTモデルの最新アップデートモジュール、ドライバ、ソフトウェアについての情報を、以下でご提供しています。最新アップデートモジュールが公開されている場合は、ダウンロードして適用をお願いします。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/>

● SupportDesk について（有償）

システムの安定稼働に向け、保守・運用支援サービス「SupportDesk」のご契約をお勧めします。ご契約により、ハードウェア障害時の当日訪問修理対応、定期点検、障害予兆／異常情報のリモート通報、電話によるハードウェア／ソフトウェアの問題解決支援、お客様専用ホームページでの運用支援情報提供などのサービスが利用できます。詳細は、SupportDesk紹介ページ「製品サポート」

(<http://segroup.fujitsu.com/fs/>) を参照してください。

● AzbyEnterprise について（無償）

最新情報を電子メールでお届けする「AzbyEnterpriseメール配信サービス」をご提供しています。富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NETのビジネスユーザー向け情報ページ(<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/>) から入会できます。

●製品・サービスに関するお問い合わせ

製品の使用方法や技術的なお問い合わせ、ご相談につきましては、製品をご購入された際の販売会社、または弊社担当営業員・システムエンジニア(SE) にご連絡ください。

PRIMERGYに関するお問い合わせ先がご不明なときやお困りのときには、「富士通コンタクトライン」に相談してください。

富士通コンタクトライン

電話によるお問い合わせ

電話 : 0120-933-200

ご利用時間 : 9:00～17:30(月曜日～金曜日、ただし、祝日と年末年始を除く)

※富士通コンタクトラインでは、お問い合わせ内容の正確な把握、およびお客様サービス向上のため、お客様との会話を記録・録音させていただきます。

Webによるお問い合わせ

Webによるお問い合わせも承っております。詳細については、富士通ホームページをご覧ください。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/>

●保証について

保証期間中に故障が発生した場合には、保証書に記載の内容に基づき無償修理いたします。詳細については、保証書をご覧ください。なお、保守サポート期間は、お客様のサーバ購入後5年間です。

●定期交換部品について

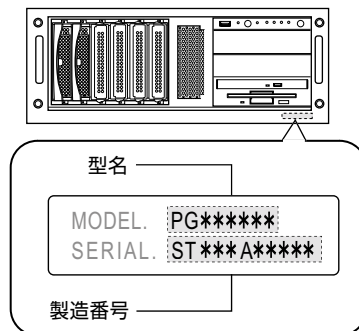
お客様の使用環境や使用時間により、保守サポート期間内に交換が必要になる定期交換部品があります。

『ユーザーズガイド 7.9.1 保守サービス』－「■定期交換部品について」を参照して、内容をご確認ください。

●修理ご依頼の前に

本サーバに異常が発生した場合は、『ユーザーズガイド 7.2 トラブルシューティング』を参照して、内容をご確認ください。それでも解決できない異常については、担当営業員または修理相談窓口にご連絡してください。

ご連絡の際は、サーバ本体の下記に貼付のラベルに記載の型名、および製造番号を確認し、お伝えください。



また、事前に『ユーザーズガイド 7.9.2 修理相談窓口に連絡するときは』をご覧ください。必要事項を確認してください。お客様が退避したシステム設定情報は、保守時に使用します。

●修理相談窓口

・サポートサービス(SupportDeskなど) 未契約のお客様

- ・製品保証期間中の保証書による修理
- ・保証延長(カスタムメイドオプション) による修理
- ・製品保証期間終了後の、サポートサービス(SupportDesk など) 未契約の場合の修理
 - 当社指定のサービスエンジニアによるオンサイト修理を行います。サービスエンジニアは、連絡を受けた翌営業日以降に訪問します。
 - サービスの対象製品／作業時間に応じ、技術料／部品代／交通費などのサービス料金をご依頼の都度、申し受けます。

富士通ハードウェア修理相談センター

電話 : 0120-422-297

ご利用時間 : 9:00～17:00(月曜日～金曜日、ただし、祝日と年末年始を除く)

※音声ガイダンスに従って、お進みください。

13 リサイクルについて

本サーバを廃却する場合は、担当営業員に相談してください。本サーバは産業廃棄物として処理する必要があります。

注意事項

データのバックアップについて <p>本装置に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください。</p>	
注意 <p>この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。</p>	
本装置は、社団法人電子情報技術産業協会のサーバ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。	
アルミ電解コンデンサについて <p>本装置のプリント板ユニットやマウス、キーボードに使用しているアルミ電解コンデンサは寿命部品であり、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因になる場合があります。目安として、通常のオフィス環境（25℃）で使用された場合には、保守サポート期間内（5年）には寿命に至らないものと想定していますが、高温環境下での稼働等、お客様のご使用環境によっては、より短期間で寿命に至る場合があります。寿命を越えた部品について、交換が可能な場合は、有償にて対応させていただきます。なお、上記はあくまで目安であり、保守サポート期間内に故障しないことをお約束するものではありません。</p>	
本製品のハイセイフティ用途での使用について <p>本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。</p>	
本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。 (社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)	
当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。	
高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品	
使用許諾契約書 <p>富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本サーバにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。</p>	
ソフトウェアの使用条件 <p>1. 本ソフトウェアの使用および著作権 お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本サーバでのみ使用できます。なお、お客様は本サーバのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。</p> <p>2. バックアップ お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。</p> <p>3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み 本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。</p> <p>4. 複製 (1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。 本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。 ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。</p> <p>(2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。</p> <p>5. 第三者への譲渡 お客様が本ソフトウェア（本サーバに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたサーバとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本サーバに添付されている媒体を本サーバとは別に第三者へ譲渡することはできません。</p> <p>6. 改造等 お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをとまうリバースエンジニアリングを行うことはできません。</p> <p>7. 保証の範囲 (1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本サーバをご購入いただいた日から90日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。 また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本サーバをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。</p> <p>(2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。</p> <p>(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記(1)の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。</p> <p>8. ハイセイフティ 本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。</p>	
原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など	
富士通株式会社	

Adobe、Acrobat Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の登録商標です。
Microsoft、Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
everRun、everRun FT および Marathon ロゴは、Marathon Technologies Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。
All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2007

FUJITSU